

JIA長野県クラブ 49

社団法人 日本建築家協会

2001. 7. 1



▲13年度通常総会



▲学生卒業設計コンクールの表彰式



▲学生卒業設計コンクール入選作品展

記念講演した写真家の木田勝久氏▼



CPDこそ生き残りの命綱

5月18日に当クラブの通常総会が皆様ご協力のお陰で滞りなく終了することが出来、有難うございました。以後23日に支部、31日に本部総会が行われ組織や運営のあり方など基本的な問題提起があり、JIAはじまって以来の白熱した議論が続出しましたが無事終了したことをご報告申し上げます。

この二つの総会を通じ、CPD(継続職能研修)がいかに私達にとって抜き差しならない状態になっているかを痛感しましたので改めてここで皆様にお伝えしたいと思います。まず、CPDの成否がJIAの命運を握っていると同時に、建築家資格制度の行方もそれによって大きく左右されるだろうという認識が強く示されたことです。次に、各地域共通の認識としてCPDの義務励行は会員減になりかねない危険性ははらんでいるという点でした。特に後者についてはどこの地域会でも常日頃の活動に能動的に参加するメンバーは1/3～1/4で、彼等はCPDの単位取得は問題ないと思われるが、残りの受動的あるいは消極的なメンバーは単位取得が心配で会員資格の喪失につながりかねないという指摘があったことです。このことを心に深く刻んでいただきたいと思います。

建設界全体が大きな転換期に差しかかったと同時に、国も県

会長 松下重雄

も公共事業の削減が本格的な様子となり、会報46号巻頭文で申しましたように「抑制の世紀」の幕開けを覚悟せざるを得ないかも知れません。設計業界も当然のことながら淘汰を余儀なくされるでしょう。清く、正しく、良い作品で社会に貢献しているはずのJIAの仲間も少なくとも対象とならないことを願いたいものです。

この厳しい局面を迎え当会では新年度事業の全ての活動をCPD試行に結びつけるべく「シリーズ研修会」を設けました。また、このような時期にこそ謙虚な気持ちで地力をつけるチャンスです。作品互評の場である「建築デザイントーク」も用意しました。そして、地域会の性格づけや事業をより鮮明にするため「より地域に密着した学び合い、学び続ける団体」としてアピールしていきたいと思います。学ばなければ生き残れません!!そこで7月後半にCPDに関する全ての疑問にお答えできる「本音で語ろう会」を計画しました。「CPDの目的は?建築家資格制度との関係は?認定プログラムとは?本当に会員資格喪失になる?」などなど疑問をぶつけ合ひましょう。出難いメンバーに気軽に参加するよう呼びかけていただき一人以上を誘ってきてください。初めて参加の方を大歓迎でお待ちしております。

大学の部

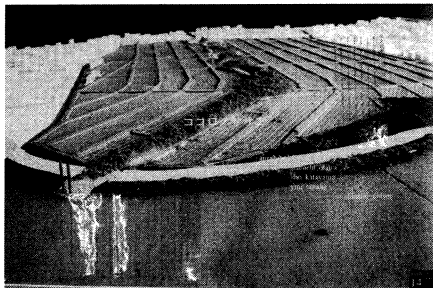
金賞



「a passage from」 — 小学校再生計画 —

花崎 有里 (信州大学工学部)

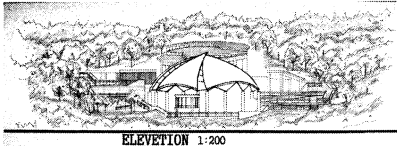
銀賞



「諏訪に通るココロノササエ」 — 共存 —

小原 真一 (信州大学工学部)
片山 昇 (信州大学工学部)
田中 裕嗣 (信州大学工学部)

銅賞

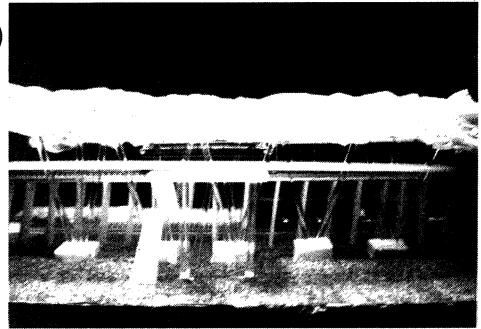


「音と光の空間」 — 形のない道標 —

石井 基寛 (信州大学工学部)

専門学校の部

金賞

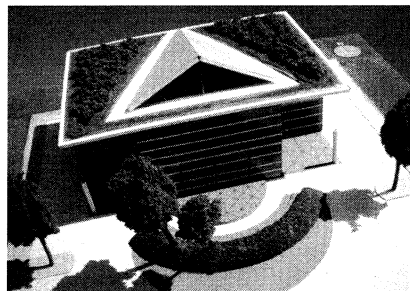


「JR大糸線・南豊科駅計画」 — 駅舎と安曇野との融合 —

三村 健太 (長野美術専門学校)

銀賞

「PFI型事業を取り入れたスポーツ系小売店」



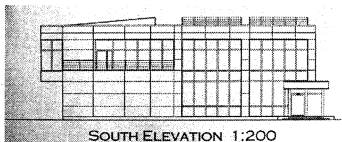
大山 義弘
高嶋 孝幸
(国際コンピュータ
ビジネス専門学校)

銅賞

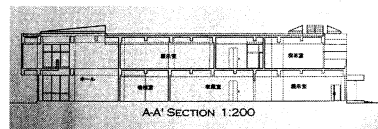
「ART MUSEUM OF LIGHT」

金子 孝寛

(上田情報ビジネス
専門学校)



SOUTH ELEVATION 1:200



A-A' SECTION 1:200



現代建築の旅に感動

市川 英一
(株) 設計室コム

JIA長野県クラブの通常総会に合せて行われる記念講演会が、今年も5月18日に開催されました。この記念講演会は、会員でなくても聴講できるので、JIAに入会させていただく前から毎年楽しみにしていました。

今回は、写真家の木田勝久先生が「VisionWorks-モチーフとしての現代建築」というテーマで講演されました。

内容をひとことで表すとすれば、スライドによる現代建築の旅といえます。

旅は、まず国内に建つ、建築写真の撮影に興味を失いかけていた木田先生が現代建築の写真を撮るきっかけになったという、現代住宅 (TrussWallHouse) から始まり、歌舞伎町のリチャード・ロジャースを見て、ロジャースの作品を追いかけるかのごとくイギリスへ飛び、そしてフランス、スペイン、オランダ、ドイツ…と続き、最後に再び日本に帰り、感動の現代建築の旅が終わる、といった大旅行です。スライドの旅の直後、すばらしい映像の余韻の一方で何か時差ボケのような感覚がしました。

この時の「時差ボケのような感覚」は、たぶん 私の作品が被写体たり得るのだろうか? という反省と恥ずかしさなのでしょう。

全ての写真は、あたかもそこに自分が居るような臨場感があり、しかも心地良く美しい写真でした。ファインダーを通して空間を絶妙なアングルで光と陰と時を共に切り取る時に、研ぎ澄まされた感性で建築と対話をし、その一瞬に心まで写し込んでいるからでしょう。

尚、木田勝久先生の作品は、インターネットの <<http://www.katsuhisakida.com/>>で観賞することができます。



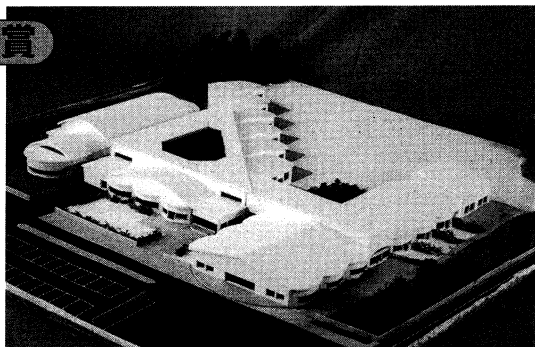
審査をふりかえって

審査委員長 藤森 照信

まず高校の部から。デザインの向上はここ数年著しいが、年によって学校単位のレベルが大きく変動する傾向が見られる。ある年はその学校の作品が一様に良かったのに、翌年は急に下がるといったように。おそらく指導にあたる先生が何を重視するかによるのだろう。高校生

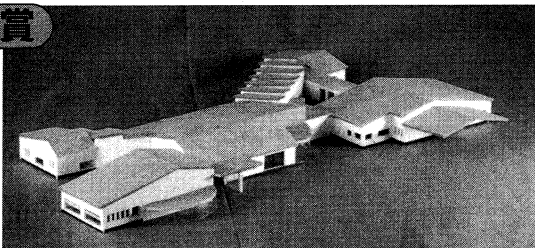
高校の部

金賞



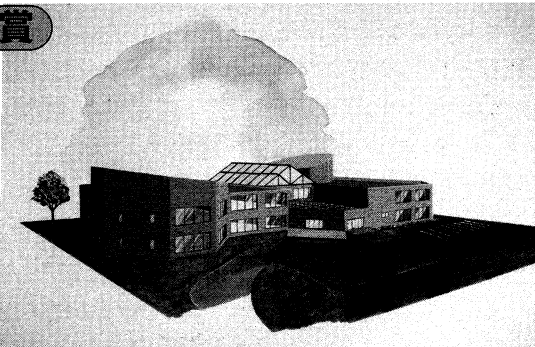
「幼稚園設計図」高橋博敬 (長野工業高等学校)

銀賞



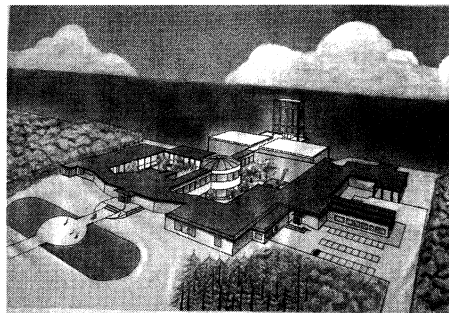
「老人ホーム」野呂健太 (長野工業高等学校)

銀賞



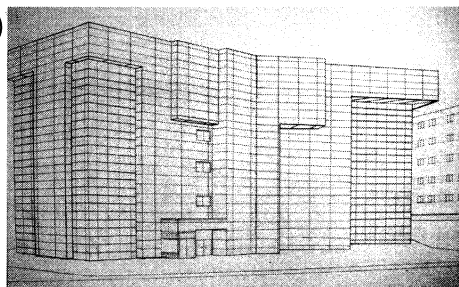
「市立図書館設計図」
宮坂友輔 (上田千曲高等学校)

銅賞



「碧の美術館～青い空 青い海 緑の森～」
新井祐介 (飯田長姫高等学校)

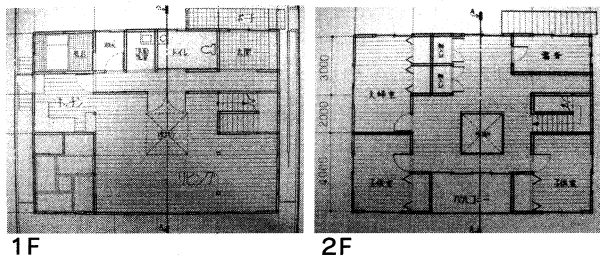
銅賞



「ティモビル」—貸しビル—
須澤倫寛 (池田工業高等学校)

銅賞

「笑顔溢れる」な家 小川勇治
(中野実業高等学校)



1F

2F

の得られる建築界の情報は限られており、それだけに先生の指導の影響は決定的なのである。

今回、金賞となった高橋博敬君の幼稚園案は、平面計画は基本を踏まえて機能の配置をきちんと行い、パースも基本を押さえたものとして高く評価された。惜しくも銀賞となった宮坂友輔君の図書館案も、平面・パースともしっかりしていた。銀賞の野呂健太君の老人ホーム案は、個室化の方が良かったと思う。

専門学校の部について。昨年は建築CADのパースが審査員の注目を集めたが、今年は慣れたせいも、格別驚きの声はあがらなかった。金賞に輝いたのは三村健太君の南豊駅敷の計画。フラットホームの上屋などを雪に見たてるといったユニークなもので、審査員全員の支持を得た。もし材料などがうまくいけば、信州の駅のひとつにこのようなものがあつてもいい。そのように思わせたところが金賞受賞のポイントといえるだろう。銀賞は大山義弘、高嶋孝幸両君のスポーツ系小売店の計画。商売としてのアイデアに優れた小売店計画であることが評価された。パースがもっと良ければもっと評価されただろう。

最後に大学の部について述べたい。金賞に輝いたのは花崎有里君の「小学校再生計画」である。新築ではなく、

既存の鉄筋コンクリートのありふれた学校建物に手を加え、リサイクルして再利用するという考え方が評価された。耐震補強などの克明な対策も評価された。しかし、古い骨組みの上に新しくまとまった表現が新鮮さに欠けるのが惜しまれる。戦後に多く造られた学校のダレた表情をできれば一気に変えてほしかった。

銀賞は、小原真一、片山昇、田中裕嗣の3名による「諏訪に通る ココロノササエ」である。諏訪湖のオミワタリの神事を踏まえた計画で、古の人々の自然信仰を現代によみがえらそうという計画は極めて興味深い。グリーンベルト（現代のオミワタリ）の中に設定されている諸施設のデザインが今一步だったのがほんとうに惜しい。考え方は優れているのに具体的デザインに物足りなさを感じるプランを見ると審査員としては手伝いたくなる。

銅賞の石井基寛君の「音と光の空間」は、光への鋭敏さが際立つユニークな案であったが、それ以外の平面や表現がもっと良ければと惜しまれる。

大学の部は、アイデア一発勝負が目立ち、平面、構造表現など建築全体のレベルがついていかないと問題があるだろう。アイデアだけで一点突破したプランは、しつこくねばって全面展開へつなぐ必要があるだろう。

クラブインサイド

第1回情報特別委員会 関邦則

4月12日。松本市のホテル飯田屋に集結して近くの居酒屋に移り、委員会メンバーに松本のメンバーを加えて「デザイントーク」のテストランを実施。各自が自作の写真などの資料を持ち寄り披露。感想や意見などを言い合って夜遅くまで盛り上がりました。

第1回幹事会 丸山幸弘

4月13日開催。クラブ報告について、正副会長・委員長よりあすなろ建築展の開催時期、学生卒業設計コンクール入賞作品の巡回、CPD単位取得のためのシリーズ研修会などの報告がありました。議事については会員入退会の報告があり退会者が出たことは残念です。2001年度通常総会について事業計画(案)、収支予算(案)が承認されました。また、学生卒業設計コンクール2001入選者表彰式、記念講演会についても準備検討を行いました。

第2回幹事会 君島弘章

5月18日、長野市のメルパルクNAGANOで開催。本部・支部・クラブ報告に続き同日開催される2001年度通常総会の議事の進行、提出資料の確認と関連行事の学生卒業設計コンクール表彰式、記念講演会等について協議された。またCPDの会員への徹底とプログラム申請について、及び本年度事業スケジュール(案)の検討を行い、これからの進め方、具体策について意見交換し、正副会長・委員長・賛助会長会で検討することとしました。

2001年度通常総会 西沢利一

5月18日、長野市のメルパルクNAGANOで開催。松下会長の基幹挨拶に始まり、議案が無事承認された。特筆すべきは、「建築デザイントーク」と紆余曲折が予想される「愛と情熱の家づくり」第2弾だろう。

次に「学生卒業設計コンクール2001」の表彰式が行われ藤森照信先生の審査講評がありました。

記念講演会は、写真家の木田勝久氏による自作スライドでのお話である。日頃接しないロジャースやグリムシヨ、ズントーの作品に関心を持った。最後に来賓、学生と一緒に和やかな懇親会が行われました。

クラブアウトサイド

第1・2回支部会員委員会 久保田 三代

第1回は4月18日開催。当日は会員集会の打ち合せ(昨年総会時の公益法人化の問題について経過報告と活動報告)。第2回は5月19日パルププラザ千葉にて、千葉の地域会と交流を兼ねて開催された。入退会審査では相変わらず退会者が多い審査となりました。

第1回支部総務委員会 久保隆夫

4月12日開催。昨年度決算報告に基づき、新年度予算など財政問題、会員委員会と総務委員会の統合などの整理、また委員会規定の見直しについて協議。特に苦しい財政問題については、今後も具体策が継続協議される。

第1・2回支部役員会 松下重雄

第1回は4月18日新旧合同で行われ、報告事項に続き新年度役員構成、通常総会議案が承認された。公益法人問題についても協議した(同日公益法人問題の会員集会併催)。5月23日に第2回開催。報告事項の後、保存問題委員会から通常総会に提出される「要望書」をめぐる声明文についての協議がされ、全面的に承認された。

第1回アーキテクツガーデン 2001実行委員会 上村保弘

4月23日開催。アーキテクツガーデン2001の開催に向けて経緯が報告された。東京・銀座をメイン会場に10月23日～10月29日に開催される。テーマは「緑のある楽しい街づくり(建築環境)(仮)」。レゴ展は、本年度開催されない。CPDの参加企画関連をクリアーにすることや、会場、予算などについて協議された。

第1回支部業務委員会 関邦則

4月26日開催。委員会メンバー間での電子会議室を開くことになりました。業務に関して支部と地域会をつなぐパイプにしていきたいという趣旨。次回は6月に千葉地域会へ出向き意見交換を行います。

会員の皆様へお知らせ

～本音で語ろう会～

◇CPD(継続職能研修)について

日時：2001年7月25日(水)

15:30～18:00 (納涼会 18:00～19:30)

場所：「第一会館」松本市大手3-9-16

新入会員紹介

賛助会員 元旦ビューティ工業(株)長野営業所(長野市)



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司
発行人 松下重雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303

作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。